

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：第二回 明日を拓く日韓合同こども美術交流展

事業者名：公益財団法人 長崎ミュージアム振興財団

住所：長崎県長崎市出島町2番1号

TEL： 095-833-8110

FAX： 095-833-2115

HPアドレス： <http://www.nagasaki-museum.jp/>



連携事業者名：釜山市立美術館

会場：長崎県美術館

事業期間：平成22年5月15日 ～ 平成23年1月25日

1. 館の使命と本事業の関係

県立として唯一の美術館である長崎県美術館は、そのコンセプトを、血が通い、温かい命が巡る「呼吸する美術館」としている。その使命達成のため、次の3つを基本方針として取り組んでいる。

①「交流」

美術館活動の全工程を通して、すべての利用者(潜在利用者)との双方向の交流を目指し、年齢・性別・国籍の違いと障害の有無を越えて、地域や世界との対話を広げる。

②「創造と連携」

規模・館種・地域の相違を超えて、相互理解を深め、学校・大学・国内外の美術館や生涯学習施設とともに、家庭・ボランティア・行政・企業など地域社会と連携し、子どもから高齢者まであらゆる世代と協働し、豊かな感性と創造力を育み、新たな長崎文化を創出して、地域連携から国際連携への発展を目指す。

③「体験と発信」

「展示・公開」中心の美術館から「参加・体験」する生涯学習活動を重視する美術館として、県民・市民が広く参加する講演会やワークショップなど様々なプログラムを企画し、その積極的な情報発信を行い、身近に触れ合い気軽に利用できる開かれた美術館を目指す。

これらの館の使命を考慮しつつ、特にこれからの日本を担っていく子ども達を中心として、様々な年代が関われる「体験と交流」「他国との相互理解」といった要素を織り込んだ本事業を企画・実施することとした。

2. 企画内容

①事業目的

当館と釜山市立美術館が共同で教育普及事業を行うことにより、これからの時代を担っていく子供たちが国際交流の楽しさや大切さを広く体験してもらうことを目指している。また今回の企画では活動が子ども達だけにとどまらず、本企画に関わる様々なボランティアスタッフや地域の学校をも巻き込んだ内容としての広がり、作品展においてはお互いの地域の相互理解まで深めていくことを視野に入れて実施をした。その他、両館職員による共同研修の機会を設けることにより、当館と釜山市立美術館が今後末長く連携して行くための基礎作りをも図っていく。

②事業概要

当館と釜山市立美術館が連携を開始して2年目になる事業。大きく3つの内容をもとに事業を行った。

【1】両都市の子ども達をつなぐ事業。教育普及事業による共同企画（日韓こども美術交流展・関連ワークショップ等）の実施。

【2】美術館運営全般にて行う職員研修等の実施。

【3】生涯学習として実施する語学講座（ハングル語講座）

今後の両館連携については覚書締結を計画

3. 事業実績

（1）事業の主な内容及び日程

■日韓合同企画ワークショップ（美術交流展、展示作品制作のためのワークショップ）

【内容】「日韓合同こども美術交流展」展示作品の制作ワークショップ。

「思い出の風景・行ってみたい場所」をテーマに、コラージュにて作品を制作した。

【対象】小学校高学年～中学生対象。

【期日】6月13日（日）

【場所】長崎県美術館

【協力】地域高校との連携。長崎日本大学高等学校デザイン美術科

■日韓合同こども美術交流展

【内容】長崎・釜山の地域の子供たちの作品を展示する「こども美術交流展」の実施。

【期日】7月23日～31日

【会場】長崎県美術館アトリエ

〈参考〉釜山会場：8月16日～23日

■日韓合同こども美術交流展関連ワークショップ

【内容】釜山を代表する美術家を紹介してもらい、伝統文化や現代アートをも盛り込んだ作品制作の体験型ワークショップとして実施。

【講師】金 正周（釜山在住現代美術家）

【対象】小学生～中学生対象。

【期日】7月23日・24日

【場所】長崎県美術館ホール

■相互の美術館職員による交流研修

①相互学芸員による収蔵作品調査

【釜山市立美術館】8月20日

【長崎県美術館】10月28日

②共同プロジェクト開発のための両館エディューケーター共同研修

【期日】10月12日～14日

【場所】長崎県立対馬高等学校

【参加者】長崎3名 釜山3名

③釜山市立美術館職員の研修受け入れ（①10月28日に実施）

■研修会「ハングル語講座」の実施

【内容】初級～中級者を対象とした語学講座。読み書きから日常会話までを学習

【講師】姜 善淑（長崎県立高等学校ハングル語非常勤講師）

【対象】長崎県美術館職員・県民アートボランティア会員

【受講人数】20 名

【期間】5 月 20 日（木）～7 月 29 日（木）全 9 回

■ハングル語表記のワークシート制作

【内容】一人でも対話型のような鑑賞ができるワークシート
の制作

【題名】おしゃべり鑑賞ワークシート（ハングル語版）

【作品名】

①パブロ・ピカソ《鳩のある静物》

②ダニエル・バスケス・ディアス
《須磨彌吉郎の肖像》

③野口彌太郎《長崎の山々》

④山本森之助《雨後》

【対象】韓国人の小中学生対象

【制作数】2000 部（各 500 部×4 種類）



（上写真は長崎、下写真は釜山にて撮影）

（2）参加者の数

参加者人数 延べ 956 人

内 訳：

■合同企画ワークショップ 49 人
（小学生）

■日韓合同こども美術交流展 632 人
（全年代）

■関連ワークショップ 71 人
（幼児～小学生）

■交流研修（エディューケーター研修）6 人
（館職員）

■交流研修（釜山職員受け入れ）3 人
（館職員）

■ハングル語講座 189 人
（館職員+ボランティア）

（3）事業により作成した印刷物等

■第2回 明日を拓く日韓合同こども美術交流展 A4 チラシ

■おしゃべり鑑賞ワークシート（ハングル語版）※上記、事業実績にて記載

（4）実施事業に関する新聞記事等

新聞記事

6 月 08 日付 長崎新聞／文化面[合同展前に県美術館訪問]

6 月 19 日付 長崎新聞／情報面[日韓合同こども美術交流展関連ワークショップ募集]

7 月 23 日付 長崎新聞／地域総合

[合同展を前に知事表敬 釜山市立美術館長 日韓交流を期待]

7 月 25 日付 長崎新聞／地域

[リサイクルテーマに創作 日韓合同こども美術交流展長崎会場始まる]

7 月 29 日付 朝日新聞／第2長崎[長崎情報‘日韓合同こども美術交流展’]

8 月 20 日付 国際新聞（大韓民国）／文化面

[‘美術’という言葉 韓・日二国の童心一つに繋いで]

8 月 31 日付 長崎新聞／文化面

[‘美術に国境はない’実感 諫早市の画家、鶴田さん ワークショップで指導]



日本で開くワークショップで使う折り紙を触る釜山市立美術館の館長（中央）
釜山市立美術館

合同展前に県美術館訪問

県美術館と韓国・釜山市立美術館は今夏、昨年に引き続き両美術館で「明日を拓く日韓合同子ども美術交流展」を開く。釜山市立美術館の曹日相館長ら3人がこのほど、打ち合わせのため長崎市出島町の県美術館を訪れた。同展は両美術館の人的交流を軸に、子どもたちのワークショップを双方で開催。今年は7月23、24の両日、韓国釜山市在住の現代美術作家、金正周さん（40）を県美術館に招き、小学生を対象としたリサイクルをテーマに、紙を使ったワークショップ「Recycle-Ar」

韓国・釜山市立美術館館長ら

日本の作品に「今年も期待」

（平古場富美）
釜山市立美術館のワークショップの詳細は次の通り（いずれも県美術館内で開催、事前申し込みが必要。同館☎093・833・2110）。

▽「貼絵で描く思い出の風景／憧れの風景」
6月13日午前10時～午後3時。対象は小学3年生～中学生、定員30人。
▽「韓国・釜山のアーティストによるワークショップ」
7月23日午後2時半～同4時、同24日午前10時半～正午、午後2時半～同4時。対象は小学生。定員は各回30人。

（平古場富美）

テレビ

7月23日放送 NIB 長崎国際テレビ／県内ニュース news every [日韓子ども美術交流展]

ラジオ

7月16日 長崎シティFM One Fine Day [日韓子ども美術交流展の情報]

4. 事業の成果及び今後の課題（参加者の意見を含む。）

本年度で第2回目となる本企画であったが、展覧会で展示する子どもの作品の内容や関連ワークショップについて釜山市立美術館の担当者とも十分に打ち合わせができ、次年度につながる交流展が開催できた。本展がもととなり長崎県美術館と釜山市立美術館は今後の連携について覚書を締結することとなった。今後、教育普及での連携にとどまらず作品交流を視野に入れた交流を検討していく。

今回の企画で最初に実施したのが、開館して初めての試みとなった地域高校との連携ワークショップである。この時期に開催されていた企画展の表現技法を参考にして本展作品を制作したが、ワークショップの雰囲気と作品の出来共に参加者のみならず高校生スタッフにとってもたいへん満足のいく内容が実施できた。また、本展オープニング後に開催された関連ワークショップでは、日本へ留学経験のある釜山在住の現代美術作家が長崎の子ども達に日本語で指導をおこない、参加者や同伴した保護者に好評だった。この内容は地元のテレビ局をはじめ県内外に広く報道された。また、この時制作された子どもの作品は全作品が釜山へ運ばれ、釜山市立美術館地下鉄ギャラリーにて展示された。

両館の教育普及担当者において本交流展での連携方法や可能性についての模索をした。その一つの手段として光回線を使用したフルハイビジョン画像システムについて。これは長崎県美術館と対馬が実施している遠隔授業を参考にして検討をおこなったが、次年度から同システムを使い、長崎・釜山両地域の子どもの交流を実施することを検討する方向となった。

今回制作したハングル語ワークシート制作において、釜山市立美術館職員からの全面的協力をいただいた。年少の子どもに伝わりやすいハングル語での表記を心がけ、今後長崎に来館した韓国の子ども達に長崎の作品理解の一助となるツールが作成できた。

今回、ワークショップ等の補助で入るアートボランティアや当館職員を対象に昨年度に引き続きハングル語講座を開催したが熱心な参加があった。

本企画では、県や市を巻き込んだ取り組みとして周知されるところまで実施できた。次年度は、長崎出身の絵本作家から協力を得ることが内定している。今後さらに友好関係を発展させていきたい。